

分野	団体	ボランティア活動やそれに類する活動	他団体との協力など、連携している事例	課題として感じていること	ボランティアの受け入れについて
地域活動	松戸市ボランティア連絡協議会	地域環境美化緑化の推進運動、金ケ作育苗圃において、草花の種から育てた花を地域の公園や街路樹隣等に植え付け等	金ケ作育苗圃では、各草花愛護団体12団体と協力して活動し、情報交換や他地域への活動協力をしている	毎年春に草花育成勉強会を実施して、市内緑化の一端を担っているが、各地域での活躍が見えづらい	自前のチラシを作成して配布している（が、松戸市の広報誌で募集記載してほしい）
地域活動	松戸市町会・自治会連合会	五香地区市民大運動会（6町会合同）を松戸四中の校庭を借りて毎回開催している（10/13） 高木第二小学校の校庭で4町会の防災訓練を実施している（六実消防署などの協力のもと）		運動会：早めに通知していても関心が少ない。若い人たちの参加が少ない（無理をして日程を合わせない）。 防災：暑い時期は参加が少ない。 各町会の悩みは一緒 大きく日程を変えることは難しい 高齢化が進んでいる	運動会において 生徒たちにボランティア証明書 学校側の協力 生徒たちに協力 依頼（43名）
地域活動	松戸市町会・自治会連合会		松戸市町会・自治会連合会全体を対象とするのは範囲が広すぎて把握できないが、連合会として、他団体とボランティア活動について協力している例は聞いていない。私の所属する明第2東地区会としては、「きたまつごみゼロくらぶ」を母体としたボランティア団体「みんなの秋祭り実行委員会」を協力団体として支援している例はある。	町会・自治会連合会の各地区会、さらに言えば、各町会において、深刻な問題になりつつあるのが、役員の高齢化と担い手不足による活動能力の低下、各種行事の縮小ないし中止に伴う地域活動の沈滞化ではないだろうか。この傾向は残念ながら、人口の減少と若者世代の貧困化、個別化によって今後加速する可能性があると考えられる。「衣食足りて礼節を知る」のが人間の自然なのだから、若者への経済支援をどう強化するかを論じるのが、ボランティア問題の基本ではないか	
地域活動（学校）	松戸市PTA連絡協議会	各校で登下校の見守り（小学校）や、バザーやゴミ拾いなどイベントの開催を行っている学校は多いと思います。	町会にご協力いただいたり、地域の見守りボランティアの方にご協力いただいています。 また主に子育てに関わる他団体の講演会に参加させていただいたり、調査などの協力、情報交換をさせていただいております。 （ボランティアには直接関連はないとは思いますが）	私がPTAに関わるようになったころと比べても共働き世帯が増えたこともあり、講演会やイベントになかなか人数が集まらなかったり、負担に思うご家庭が多くなっているように感じています。	
学校	市民公募	ボランティア活動 ・千葉県地球温暖化防止推進員（他市で自然環境保全等） ※他市での活動のため略 それに類する活動（会計年度任用職員） ・小学校で週4回教員業務支援（スクールサポートスタッフ）	小学校のスクールサポートスタッフとして勤務している中で感じたこととして、勤務校はPTAの組織がなく、地域の方が学校運営協議会を組織し、地域・地区との共生を行っている。	地域のつながりの希薄化、ボランティア等の担い手不足、関心の薄さなど様々な要因による課題を感じる。 勤務校では児童の登校時の見守り体制はあるが、下校時は手薄に感じる。	勤務校において現在は、運動会等の行事の際は先生のみでは負担が大きくなり保護者へ設営準備、整理要員、付き添いのボランティアを募っている。
学生	聖徳大学短期大学部	各所からの募集があり、それを学生が適宜対応可能なものに申し込む。	松戸市と連携した課外活動を積極的に行っている。	授業時間との重なりがあり、対応できないものもある。	

分野	団体	ボランティア活動やそれに類する活動	他団体との協力など、連携している事例	課題として感じていること	ボランティアの受け入れについて
学生	流通経済大学	<p>大学内のイベントや行事、学内ダイバーシティ共創センターの事業、RKUプレイセンター（RKU常盤平団地コモンズステーション）の活動の際にボランティア学生を募集し、活動をしている。</p> <p>上記の他、地域の関連団体（日本プレイセンター協会、龍ヶ崎市社会福祉協議会、ほっとる一む新松戸、社会福祉法人晴香、新松戸社会福祉協議会、子ども食堂等のNPO法人などの市内団体）と連携し、ボランティア学生を派遣するなどの協働活動を実施している。</p>	<p>・NPO法人松戸子育てサポートハーモニートコロボをし、年2回程度、大学内で遊びの広場を開催している。</p> <p>・龍ヶ崎市社会福祉協議会主催の障害児支援事業で、学生企画の遊びの事業を2回開催している。</p> <p>・日本プレイセンター協会やダイバーシティ共創センター協力のもと、松戸市常盤平団地にてプレイセンターを実施している。</p> <p>・児童養護施設 晴香園で、バザー等ボランティアに参加している。</p> <p>・新松戸社会福祉協議会主催のSDGsクッキングにボランティア学生と参加している（年10回程度）</p> <p>*子ども食堂まんがく小屋さんと連携イベントを過去に3回実施した。</p>	<p>大学の一教員の立場から回答させていただきます。大学生の生活環境やボランティアに対する考え方なども変化しており、従来のボランティアの運用が難しい。このことが最大の課題であると捉えている。</p> <p>昨今、経済的に困窮する学生が増えており、ボランティアへの登用が従来と比較し、困難となっている。他方、地域からは、高齢者が増えた等の理由で、力仕事など大学生のボランティアの依頼がかなり頻繁にくる。こうした地域の困りごとにも十分理解ができる。しかしながら、交通費を自費で負担し、遠方から学生に参加してもらうことや無償ボランティアとして長時間拘束したりすることに限界を感じている。</p> <p>加えて、ボランティアという性格上、自由参加という要素が強いことから、活動に対するモチベーションや責任感が弱く、積極的に活動する学生がいる一方で、気軽に当日欠席の連絡をしてくる学生も増加傾向にあることも課題として感じている。こうした現況に反して、地域からは、学生への役割期待や要望がとても多い。そのため、時代の変化を受けた体制、すなわち現在のボランティアの仕組み自体を現代にあった仕組みに変革していく必要があると強く感じている。</p> <p>例えば、ボランティア活動に対する考え方、捉え方の変容など、地域の様々な立場、世代の人たちと学びあうような機会が欲しい。</p> <p>20年前は、学生や専業主婦を中心としたボランティア活動が盛んにおこなわれていたが、現在は、若い世帯の共働が多い。そのため、専業主婦層のボランティアが期待できなくなっているばかりか、学生たちもボランティアをしているゆとりがないように感じている。また、これまでボランティアを担ってくださった方々が高齢者となり、引き継ぎ手がないことも課題となる。このような時代の変化に伴うボランティア活動の実態を地域団体の方々とも議論したい感じている。少なくとも大学は、ボランティアスタッフの人材バンクではない。事業や活動に貢献した結果、学生にとっても学び機会や教育効果、個々の成長につながるなど、何かしら得るものが担保されるようにWin-Winとなるボランティア活動の実践を推進していきたいと願っている。</p>	
見守り	松戸市医師会	<p>松戸市見守り協定を市と医師会で締結させていただいています。</p>	<p>実施主体ではありませんが、他団体と協力している事例として、高齢者見守りチェックリストの作成、および、社会資源一覧（明第一地区）を再度提出させていただきまます。</p>	<p>見守り協定を締結しましたが、医師会員の認知度には今のところ課題があるものと認識しています。さらに、「明らかに気になる方を見守る」ことは認識しやすいですが、たとえば、「内科には全く受診していないけれども、皮膚科だけ継続受診している方」についてはその医師が唯一のかかりつけ医ということになり、たとえばその方の認知機能について課題に気づいた場合にも、地域包括支援センターに連絡することを医師会員に広く推奨するということが今後取り組みたいと考えています。</p>	<p>（医師会としてではなく、各医療機関の取組として）</p> <p>各医療機関の取組として患者会や家族会等の取組はあるものと思えます。ただし、これまで医師会としてそのような活動について把握するための調査を行ったことがないため、詳細までは把握できていません。</p>
見守り	松戸市民生委員児童委員協議会	<p>地域住民の立場から生活や福祉全般に関する相談・援助活動を行う。また、児童委員として児童、及び保護者の相談支援を実施している。行政に各種協力し、住民の身近な相談相手となり、支援を必要とする住民と行政や専門機関をつなぐパイプ役を務める。</p>	<p>・見守り活動において市社協、及び地区社会福祉協議会の活動と密に連携している</p> <p>・少年補導員、保護司、学校関係などと社会を明るくする運動等を通して情報交換やつながりを構築している</p> <p>・他個々のケースに応じてNPO・町会等の他関係機関と連携している</p> <p>→連携・協力において守秘義務があるため、それとの兼ね合いが課題である</p>	<p>・民生委員の高齢化</p> <p>・民生委員のなり手減少</p> <p>・他団体と連携・協力するうえで守秘義務があるため、伝えられる情報が限定される</p>	

分野	団体	ボランティア活動やそれに類する活動	他団体との協力など、連携している事例	課題として感じていること	ボランティアの受け入れについて
福祉	松戸市障害者団体連絡協議会		松戸市障害者団体連絡協議会は7つの障害者団体の集まりなので、それぞれの団体間での連携・協力は毎月の理事会にて実施しています。それ以外には、まつど市民活動サポートセンターのLet's体験やまつど地域活躍塾などに協力している。		年1回の団体のイベント（夏祭り）へのボランティア受け入れ、勉強会開催の際に、一般市民参加者受け入れ。とはいえ、まだ不十分だと感じている。 当団体も高齢化・会員減少という側面もあり、簡単なことではないと考える。
福祉	東部地域包括センター		高齢者支援連絡会と連携をして、地域のイベントなどに参加している。		
福祉	松戸市社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンターを運営し、ボランティア活動をしたい人とボランティアを依頼したい人や施設とのコーディネートをしています。 ・ボランティア講座を開設し、ボランティア活動者を育成しています。 ・ボランティア団体や地域活動団体に助成金を交付しています。 ボランティア保険の加入、及び事故時請求事務を行い、継続活動者や学生ボランティアには保険料の一部を補助しています。		ボランティアの高齢化や担い手不足。	<ul style="list-style-type: none"> ・使用済み切手の整理や学校での福祉教育などの社協事務に協力いただくボランティアを受け入れていきます。 ・地域での活動を希望するボランティアには、地区社協の事業を紹介しています。
福祉（居場所）	中核地域生活支援センターほっとねっと		<ul style="list-style-type: none"> ・若者（主に高校生）の居場所づくりにおいて、NPO、子ども食堂、学校等と連携している。 ・引きこもり支援ネットワークづくりにおいて、家族会、当事者活動団体、福祉関係機関・団体等と連携している。 		
シニア	松戸市はつらつクラブ連合会	1. 高齢者施設の慰問 2. 一人暮らしの家事支援（掃除手伝い等） 3. 公園の清掃 4. 高齢者の見守り活動 5. グリス口の運転や補助員で運行支援 ※各単位クラブで様々な活動をしている	地域の見守り活動を高齢者支援連絡会の相談協力員を中心に民生委員、オレンジ協力員、自治体役員と共に毎月実施している。	シニアクラブ会員の高齢化により活動参加人員の減少や新たな活動が少なくなっている。若手（75歳以下をいう）の入会が少なく、会員の減少が続いており、役員のなり手がいないクラブも増えている。	

分野	団体	ボランティア活動やそれに類する活動	他団体との協力など、連携している事例	課題として感じていること	ボランティアの受け入れについて
【参考】 更生	【参考】 保護司	犯罪や非行をした人たちが再び罪を犯すことがないよう、その立ち直りを地域で支える民間のボランティア。	松戸地区更生保護女性会と連携を取っている。	保護司候補者の減少 保護司殺傷事件による制度不安	
【参考】 地域活動 (健康)	【参考】 健康推進員	地区長・町会長・自治会長からの推薦のもと、市長より委嘱を受けた方々によって構成されている。地区定例会に出席し健康についての学習やロコモ・フレイル予防等の地域の健康づくり活動を企画・実施し、市民の健康づくりをサポートしている。	同じ担当課であるため、食生活改善サポーターとの連携はあり得る	・担い手不足 ・他団体や関係機関などとの連携において、つながりが構築し活動の幅を広げていくことが理想ではあるが、負担はどうしても大きくなってしまう。	